

夢に向かって自分を磨く羽村の若者を紹介します。



プロボクサー 鈴木 健介

羽村で生まれ育った大学3年生。
大学1年生の時にボクシングを始め、
2019年12月にボクシングプロライセンスを取得。
現在はデビュー戦に向けて日々練習に励んでいる。

立ち上っている。練習がひと段落ついた青年に声をかけた。すると、それまでの厳しい表情が一転、優しい笑みが浮かんだ。青年の名前は鈴木健介(21)。羽村市で生まれ育った、プロの世界に足を踏み入れたばかりのボクサーである。

「ひたすら真面目に練習することが強くなる近道だと思っている。練習中は集中力を高めることを意識しています。だから近寄りたくない雰囲気が出るのかな(笑)」と、照れ臭そうに話し始めた。

●ボクシングとの出会い

ボクシングと出会ったのは大学1年生の時。高校まで続けていた野球をやめ、熱中できるものがなく毎日が面白くなかった。何か新しいことを始めようと考えた時、目に留まったのがボクシングだ。

「昔父に、自信を付けるために格闘技でも始めたらと勧められたことを思い出しました。ボクシングは観戦するのが好きだったので」

母親がパンチビートボクシングに通っていたこともあり、元日本チャンピオンのリック吉村さんが会長を務める福生市の「リングサイド」に。

「ジムの扉を開くと熱い空気が噴き出してくる。活気と喧騒にあふれた室内で、ひととき真剣な表情で黙々とサンドバッグを打つ青年がいた。脇目もふらずサンドバッグを叩き続ける姿からは、近寄りたいたい空気が」

「リック会長のボクシングに対する熱い思いにとっても影響されました。『どんな相手でも自分の方が上だと思え。ライオンのように、自分がチャンピオンだという気持ちで常に持て』と言われたことが胸に響きました」

彼の中でプロになりたいという気持ちはどんどん膨らみ、ボクシングを始めて僅か2年後の2019年12月、プロライセンスを取得する。

「もう甘ったれてはいられない。プロのプライドを持たなければと気が引き締まりました」

プロとなり、デビュー戦の日程も決まった。

●拳が通用しない敵

デビュー戦に向けて順調に調整を進めていた矢先、新型コロナウイルス感染症の影響で3月に予定されていた試合が5月に延期になった。さらにその試合も延期。度重なる延期に落胆した。

「せっかく順調に調整してきたのに、今年試合ができないのではないかと不安が大分落ち込みました」しかし、持ち前のストイックなまでの真面目さが彼を立ち上がらせた。「ジムに行けなくてもできることは

ドフィットネスジム (Ringside Fitness Gym) に通い始めた。

最初は運動を楽しむ程度の軽い気持ちだったが、徐々にボクシングの世界に引き込まれていく。スポーツとはいえ人が殴り合うボクシングには恐怖感を持つ人も多いだろう。しかし彼は、楽しさを見出した。

「もちろん怖さがあります。でも実は、スパリング※をやっている時が一番楽しいんです。実践形式の練習なので、自分が思い描いたとおりに動けると、練習の成果が出た、強くなってきたと嬉しくなります」

彼にとってボクシングの魅力は、進歩と強さの実感にあるようだ。「中途半端が嫌いなんです。野球も自分でできることは出し切った。ボクシングも、面白さを知ったからには、自分でできることはすべて出し切りたい」

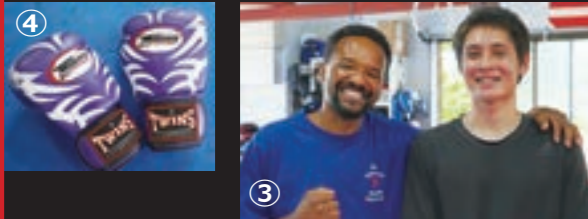
常に真面目に練習に励む姿はストイックにも映る。彼にとってボクシングは、出会うべくして出会ったスポーツなのかもしれない。

●強くなりたい

元日本チャンピオンで日本王者最多防衛記録を保持するリック会長の存在も大きい。



①ミット打ちの様子 ②スパリングでは一段と緊張を増す ③ジムのリック会長と。普段はこんな優しい表情を見せる ④サンドバッグやミット打ちに使用するトレーニング用のグローブ



●いよいよデビュー戦

トレーニングに明け暮れていた5月、デビュー戦の日程が決まったとの知らせが入った。

「目の前がパツと明るくなったような気がして、よしやってやろう、という気持ちが沸き上がりました」

そう話す表情は明るく力強い。「デビュー戦は一生に一度しかない。KO勝ちして、誰にも文句を言わせないような試合にしたいです」

デビュー戦は8月9日(日)、アリナ立川立飛で行われる。いよいよ鈴木健介のプロボクサー人生が幕を開ける。

テレビはむらで
放送予定!

鈴木選手の練習からデビュー戦までの様子をテレビはむらで放送します。放送日は、決まり次第お知らせします。お楽しみに!

※スパリング…ボクシングでヘッドギアなどの防具をつけ、試合形式で行う練習